



2019年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年11月14日

上場会社名 株式会社アエリア 上場取引所 東
 コード番号 3758 URL https://www.aeria.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 祐介
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 上野 哲郎 (TEL) 03 (3587) 9574
 四半期報告書提出予定日 2019年11月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期第3四半期の連結業績 (2019年1月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第3四半期	21,576	△10.1	2,201	23.3	2,085	28.4	1,384	-
2018年12月期第3四半期	24,002	147.4	1,785	△25.2	1,624	△33.4	△121	-

(注) 包括利益 2019年12月期第3四半期 1,461百万円(-%) 2018年12月期第3四半期 △162百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第3四半期	59.91	-
2018年12月期第3四半期	△6.22	-

(参考) EBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却額)

2019年12月期第3四半期 3,006百万円(9.3%) 2018年12月期第3四半期 2,750百万円(△2.0%)

のれん償却前四半期純利益(親会社株主に帰属する四半期純利益+のれん償却額)

2019年12月期第3四半期 1,901百万円(355.9%) 2018年12月期第3四半期 417百万円(△74.4%)

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年12月期第3四半期	27,186	14,025	50.7
2018年12月期	28,335	12,745	43.9

(参考) 自己資本 2019年12月期第3四半期 13,794百万円 2018年12月期 12,445百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年12月期の総資産及び自己資本比率については、当会計基準等を遡って適用した後の値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	-	0.00	-	5.00	5.00
2019年12月期	-	0.00	-	-	-
2019年12月期(予想)	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年12月期の連結業績予想 (2019年1月1日～2019年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,000	△4.7	3,200	70.5	3,000	85.8	2,000	-	86.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社 (社名) 株式会社アエリアコン
テンツ・ホールディング、除外
グス -社 (社名) -

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2019年12月期3Q	23,649,428株	2018年12月期	23,649,428株
② 期末自己株式数	2019年12月期3Q	538,974株	2018年12月期	538,974株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2019年12月期3Q	23,110,454株	2018年12月期3Q	19,580,330株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間(2019年1月1日～2019年9月30日)におけるわが国経済は、企業収益は高水準で底堅く推移し、また雇用情勢も着実に改善し、個人消費も持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復基調が継続しております。一方、世界経済は、アメリカにおいては着実に回復しておりますが、ヨーロッパ及びアジアにおいては弱さがみられるものの、全体としては緩やかに回復しております。ただし、米中間の通商問題を巡る緊張の増大、中国経済の先行き、政策に関する不確実性、原油価格の上昇及び金融資本市場の変動等によるリスクなど、不透明な要因が数多く存在しております。

当社グループが展開しているインターネット関連事業においては、スマートフォン・タブレット端末の普及に伴い、インターネット利用者数の増加やEC(電子商取引)市場の拡大等を背景として、引き続き成長を続けております。さらに、コンテンツサービスの多様化が市場規模を拡大しており、スマートフォン・タブレット等のモバイルコンテンツ市場においても継続的な成長を続けております。一方で、魅力的なコンテンツやアプリケーションを提供するため、サービス内容は複雑化・高度化する傾向にあるなど、開発費用や人件費等のコストが増加するだけでなく、企業間におけるユーザー獲得競争が一層激化しております。また、アセットマネジメント事業においては、投資用不動産の価格水準が高く推移し利回りも低くなっており、適正な投資案件が不足している状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは、コア事業と位置付けるITサービス事業について安定した収益基盤を強化し、コンテンツ事業においても、スマートフォン・タブレット等のモバイルコンテンツの開発事業及び配信・運営事業を強化するとともに、子会社各社の強みを生かし、これまでのマス・マーケットからターゲット層を絞ったニッチ・マーケットでの基盤を作り、深耕を進めてまいりました。また、アセットマネジメント事業においては、規模が小さく、事業期間の短い収益不動産を中心として展開することにより、事業リスクをコントロールし、金融機関の融資姿勢等に鑑み慎重に事業を運営してまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高21,576百万円(前年同期比10.1%減少)、営業利益2,201百万円(前年同期比23.3%増加)、経常利益2,085百万円(前年同期比28.4%増加)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,384百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失121百万円)となりました。

また、EBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却額)は3,006百万円(前年同期比9.3%増加)、のれん償却前四半期純利益(親会社株主に帰属する四半期純利益+のれん償却額)は1,901百万円(前年同期比355.9%増加)となりました。

なお、当社グループでは、M&Aを活用した事業基盤の強化や拡大を積極的に目指していくなかで、各国の会計基準の差異にとらわれることなく企業比較が可能なEBITDAを経営指標として採用しております。

セグメントごとの経営成績を示すと、次のとおりであります。

①ITサービス事業

ITサービス事業につきましては、オンライン電子出版に特化したアフィリエイトプラットフォーム事業を行う株式会社ファーストペンギン、及びデータサービス事業を行う株式会社エアネットが安定した収益を獲得しておりますが、アフィリエイト広告収益の減少により売上高並びに営業利益が減少しております。

以上の結果、売上高は3,935百万円(前年同期比17.2%減少)、営業利益は392百万円(前年同期比4.5%減少)となりました。

②コンテンツ事業

コンテンツ事業につきましては、スマートフォン・タブレット向けゲームの開発、配信及び運営並びにキャラクターグッズの販売等を行っております。株式会社サイバードがグループに加わった影響と、スマートフォン向けゲーム「A3!」「蒼焔の艦隊」の収益が好調に推移したことにより売上高、営業利益とも増加しております。

以上の結果、売上高は12,816百万円(前年同期比27.1%増加)、営業利益は1,662百万円(前年同期比92.0%増加)となりました。

③アセットマネジメント事業

アセットマネジメント事業につきましては、不動産の賃貸及び売買並びに国内外の企業等への投資等を行っております。不動産市況を考慮しリスクコントロールを行った結果、売上高及び営業利益が減少しております。

以上の結果、売上高は4,946百万円(前年同期比41.2%減少)、営業利益は158百万円(前年同期比70.5%減少)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第3四半期連結会計期間の末日における財政状態は、下記のとおりであります。

①資産の部

(流動資産)

流動資産につきましては18,312百万円(前連結会計年度末は19,390百万円)と1,077百万円の減少となりました。主な要因は、売掛金が4,005百万円(前連結会計年度末は3,319百万円)と685百万円増加、前払費用が391百万円(前連結会計年度末は210百万円)と180百万円増加した一方で、現金及び預金が8,709百万円(前連結会計年度末は9,782百万円)と1,073百万円の減少、商品が4,464百万円(前連結会計年度末は5,468百万円)と1,003百万円減少したこと等によるものであります。

(固定資産)

固定資産につきましては8,874百万円(前連結会計年度末は8,944百万円)と70百万円の減少となりました。主な要因は、ソフトウェアが1,548百万円(前連結会計年度末は645百万円)と903百万円増加したものの、のれんが4,367百万円(前連結会計年度末は4,875百万円)と508百万円減少、投資有価証券が1,043百万円(前連結会計年度末は1,303百万円)と260百万円減少、また貸倒引当金が△271百万円(前連結会計年度末は△121百万円)と△150百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は27,186百万円(前連結会計年度末は28,335百万円)と1,148百万円の減少となりました。

②負債の部

(流動負債)

流動負債につきましては8,951百万円(前連結会計年度末は9,684百万円)と732百万円の減少となりました。主な要因は、短期借入金が1,526百万円(前連結会計年度末は1,218百万円)と308百万円増加、未払金が811百万円(前連結会計年度末は530百万円)と281百万円増加、債務保証損失引当金が85百万円増加した一方で、1年内返済予定の長期借入金が1,115百万円(前連結会計年度末は1,602百万円)と487百万円減少、預り金が3,510百万円(前連結会計年度末は4,062百万円)と551百万円減少、また未払法人税等が54百万円(前連結会計年度は295百万円)と241百万円減少したこと等によるものであります。

(固定負債)

固定負債につきましては4,209百万円(前連結会計年度末は5,904百万円)と1,695百万円の減少となりました。主な要因は、長期借入金が3,656百万円(前連結会計年度末は5,461百万円)と1,804百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は13,161百万円(前連結会計年度末は15,589百万円)と2,428百万円の減少となりました。

③純資産の部

純資産合計につきましては14,025百万円(前連結会計年度末は12,745百万円)と1,280百万円の増加となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加1,384百万円、剰余金の配当による資本剰余金の減少115百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2019年8月14日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,782	8,709
売掛金	3,319	4,005
商品	5,468	4,464
仕掛品	10	5
前払費用	210	391
短期貸付金	31	25
その他	582	728
貸倒引当金	△15	△18
流動資産合計	19,390	18,312
固定資産		
有形固定資産	410	533
無形固定資産		
のれん	4,875	4,367
ソフトウェア	645	1,548
その他	166	141
無形固定資産合計	5,687	6,056
投資その他の資産		
投資有価証券	1,303	1,043
関係会社株式	13	11
長期貸付金	251	245
繰延税金資産	590	503
その他	808	751
貸倒引当金	△121	△271
投資その他の資産合計	2,846	2,283
固定資産合計	8,944	8,874
資産合計	28,335	27,186

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,070	1,143
短期借入金	1,218	1,526
1年内返済予定の長期借入金	1,602	1,115
1年内償還予定の社債	209	-
未払金	530	811
未払法人税等	295	54
賞与引当金	82	145
受注損失引当金	55	-
債務保証損失引当金	-	85
預り金	4,062	3,510
その他	558	559
流動負債合計	9,684	8,951
固定負債		
社債	10	119
長期借入金	5,461	3,656
繰延税金負債	101	98
役員退職慰労引当金	51	62
退職給付に係る負債	24	23
資産除去債務	133	137
その他	122	111
固定負債合計	5,904	4,209
負債合計	15,589	13,161
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,244	2,244
資本剰余金	11,928	11,813
利益剰余金	△1,080	304
自己株式	△780	△780
株主資本合計	12,313	13,582
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	79	172
為替換算調整勘定	51	40
その他の包括利益累計額合計	131	212
新株予約権	89	27
非支配株主持分	211	203
純資産合計	12,745	14,025
負債純資産合計	28,335	27,186

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年1月1日 至2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)
売上高	24,002	21,576
売上原価	15,498	11,991
売上総利益	8,503	9,585
販売費及び一般管理費	6,717	7,383
営業利益	1,785	2,201
営業外収益		
受取利息	3	6
受取配当金	9	12
為替差益	-	2
出資金運用益	-	106
未払配当金除斥益	21	7
その他	34	67
営業外収益合計	68	202
営業外費用		
支払利息	130	98
為替差損	24	-
持分法による投資損失	5	2
貸倒引当金繰入額	-	155
その他	69	62
営業外費用合計	230	318
経常利益	1,624	2,085
特別利益		
固定資産売却益	54	-
投資有価証券売却益	4	9
関係会社株式売却益	-	70
新株予約権戻入益	3	61
特別利益合計	62	141
特別損失		
減損損失	655	106
固定資産除却損	0	37
関係会社株式売却損	39	-
投資有価証券評価損	-	19
関係会社株式評価損	-	1
債務保証損失引当金繰入額	-	85
特別損失合計	695	251
税金等調整前四半期純利益	991	1,975
法人税、住民税及び事業税	702	511
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	454	-
法人税等調整額	△39	83
法人税等合計	1,116	594
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△125	1,380
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3	△3
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△121	1,384

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△125	1,380
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△31	92
為替換算調整勘定	△5	△11
その他の包括利益合計	△36	80
四半期包括利益	△162	1,461
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△158	1,465
非支配株主に係る四半期包括利益	△3	△3

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(『税効果会計に係る会計基準』の一部改正等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(企業結合に係る条件付取得対価の会計処理)

条件付取得対価は、2017年9月に取得した株式会社ゼノバースの子会社であるXenoverse Holdings, Inc. (現Aeria Canada Studio Inc.、以下「ACS」)がMAJOR LTD.グループから事業を譲り受けた際にACSが2017年から2018年の間で達成した業績に応じて追加で取得対価を支払う契約となっておりますが、第2四半期連結会計期間において取得対価の追加支払いが確定いたしましたので、支払対価を取得原価として追加的に認識するとともに、のれんを追加的に認識しております。

追加的に認識するのれんは、企業結合日時点で認識されたものと仮定して計算し、第2四半期連結累計期間以前に対応する償却額及び減損損失は損益として処理しております。

1. 追加的に認識した取得原価	141万カナダドル(115百万円)
2. 追加的に認識したのれんの金額、のれんの償却額、減損損失額	
追加的に認識したのれんの金額	141万カナダドル(115百万円)
のれんの償却額	35万カナダドル(28百万円)
減損損失額	105万カナダドル(86百万円)

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	調整額 (注2)	四半期連結損益 計算書計上額 (注3)
	ITサービス	コンテンツ	アセットマネ ージメント	合計			
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	4,740	10,053	8,407	23,201	800	—	24,002
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	12	32	—	44	—	△44	—
計	4,752	10,086	8,407	23,246	800	△44	24,002
セグメント利益又は損失(△)	411	865	535	1,812	△5	△21	1,785

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、清掃業、化成品事業等であります。

2. セグメント利益又は損失の「調整額」は、セグメント間取引消去△21百万円によるものであります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において、株式会社トータルマネージメントをはじめとした不動産事業等を報告セグメントの「アセットマネージメント事業」として追加しております。

また、第1四半期連結累計期間に新たに連結子会社となった清匠株式会社については「その他」、第2四半期連結累計期間に新たに連結子会社となった株式会社サイバード他2社につきましては「コンテンツ事業」として追加しております。

3 報告セグメントごとの資産に関する事項

第2四半期連結会計期間において、株式取得により株式会社サイバードを連結子会社といたしました。その結果、コンテンツ事業における資産の金額が5,365百万円増加しております。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

コンテンツ事業において、当初の事業計画に対する進捗状況及び今後の業績の見通しを考慮した結果、当第3四半期連結累計期間においてのれんを減損損失として計上しております。計上額は、655百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

コンテンツ事業において、連結子会社である株式会社エイタロウソフトを連結の範囲から除外したことに伴い、のれんの金額が減少しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第3四半期連結累計期間において206百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ITサービス	コンテンツ	アセットマネ ージメント	合計			
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	3,922	12,717	4,936	21,576	—	—	21,576
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	12	99	10	122	—	△122	—
計	3,935	12,816	4,946	21,698	—	△122	21,576
セグメント利益	392	1,662	158	2,213	—	△11	2,201

(注) 1. セグメント利益の「調整額」は、セグメント間取引消去△11百万円によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの資産に関する事項

該当事項はありません。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

コンテンツ事業において、当初の事業計画に対する進捗状況及び今後の業績の見通しを考慮した結果、当第3四半期連結累計期間においてのれんを減損損失として計上しております。計上額は、106百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

コンテンツ事業において、のれんの減損損失を計上したため、のれんが減少しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第3四半期連結累計期間においては106百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。